

# サステナビリティ事業

サステナビリティ事業部は、当社のサステナビリティを総括・推進する部門として、SDGsの達成に貢献する再生可能エネルギーの積極的な活用、カーボンニュートラルに向けた水素社会の実現、食の安全安心な提供に取り組んでいます。また、東亜合成グループの気候変動の抑制や生物多様性保全の対応、それらに関する情報の開示などを担っています。



サステナビリティ事業部長  
岡田 慎司

## ／ 主な事業内容

### 再生可能エネルギー

たはらソーラー・ウインド共同事業で発電事業を実施しています。日照時間の多さと優れた風況の両方に恵まれた愛知県田原市の特性を活かして、太陽光発電と風力発電のハイブリッド発電を行っています。発電した電気はFIT制度を活用して販売しています。また、自社内での太陽光発電設備の設置を進めています。オンサイトで発電した電気は全量を自社で消費しています。



たはらソーラー・ウインド発電事業

### 水素利用

徳島工場の食塩電解設備から発生する自社水素を、水素ステーションで販売しています。水素ステーションは、定置式水素ステーション1カ所、移動式水素ステーション2カ所を運営しており、FCVやFCバスに充填しています。今後も、徳島県の水素社会実現に向けて貢献していきます。



東亜合成水素ステーション徳島

### 植物工場

富山県高岡市にある植物工場で、レタスの水耕栽培を行っています。植物工場は、クリーンな屋内環境で栽培するので農業を使う必要がなく、気候の影響も受けません。安心できるレタスを一年を通じて安定供給しています。2025年からは新たに生きくらげの栽培を開始しました。通年栽培を行っており、流通量が少なくなる冬場でも生きくらげの供給が可能です。



### エコプロダクツ認定制度の構築

当社は事業活動を通じて環境負荷の低減に貢献することを重要課題の一つと位置づけており、脱炭素化や生物多様性の維持などにより環境負荷低減に貢献する製品を提供しています。こうした取り組みをさらに推進するため、環境配慮型製品を体系的に評価・認定する社内エコプロダクツ認定制度の構築を検討しています。本制度では、製品のライフサイクル全体を考慮した環境評価を行い、一定の基準を満たした製品を環境配慮型製品として位置付けることを想定しています。制度の導入により、製品開発段階から環境性能を可視化するとともに、環境価値の高い製品の創出を促進し、事業活動を通じた環境負荷低減への貢献を一層強化していきます。

### カーボンフットプリント(CFP)算定の推進

カーボンフットプリント (CFP) は、製品のライフサイクル全体における温室効果ガス排出量を定量的に評価したものです。近年、環境負荷の低減や持続可能な社会の実現に向けて、企業や消費者の間で製品の環境情報への関心が高まっています。当社は、カーボンニュートラルの実現と、サプライチェーン全体での排出量の把握と削減を求める顧客からのニーズに応えるためCFPの算定を推進しています。バルクケミカル製品を中心に製品CFPを算定し情報を提供しています。今後は、算定製品の拡大と算定作業の効率化を進めていきます。